

< 今日の説教のポイント ヨハネによる福音書 19章 28節～37節 >
主イエスの死。その事実よりそれが持つ真実を語ろうとしたヨハネ。

1 (28-30) 「成し遂げられた」がキーワード。何が？ 誰によって？

「(イエス様が) 今や成し遂げられたのを知り」とあります。ここまでの箇所(19:16-27)で、イエス様が十字架につけられてイザヤ書 53 章や詩編 22 遍に記されたことが起こっていくのを見て来ました。すなわち、旧約聖書で告げられていた神様の御計画が、神様によって成し遂げられた、イエス様はそう思われたのです。それでイエス様は満足し、差し出されたぶどう酒を飲んで、自ら納得して「息を引き取られた」のです(原文を直訳すると、霊を引き渡された)。ヨハネはパウロと同じく、「キリストが、聖書に書いてあるとおり、私たちの罪のために死んだ」(I コリント 15:3)、これが大事なのだと伝えようとしているのです。

2 (31-33) 何を言いたい？ イエス様は確かに死なれたのだと。なぜ？

ヨハネはイエス様の足は折られなかったということに拘っています。なぜでしょうか？ 足を折るということは、死を確実にするための手段でした。ここでは、それをしなかったということはもうすでに死んでいることが明らかだということを示しています(「頭を垂れて〜」(30)、「槍でわき腹を刺した」(34)も同じ意図)。旧約聖書以来、神様から示されて人々が行って来た「罪を赦していただく犠牲を捧げる行為」を、神様ご自身が何の罪も犯されなかった御子イエス様の死をもって行って下さったのです。だからこそ、私たちは、「これで罪を赦していただけたのだ」と確信をもって覚えることができるのです！ ヨハネはイエス様が死なれたことの重さを考えながらここを記しているのです。

3 (34-38) 力を込めたヨハネの証言。主イエスの血と水の意味(真実)。

ヨハネは 35 節で「自分は真実を語っているのだ」と力を入れて語っていますが、それは「事実ではなく、真実を伝えるのだ」というヨハネ福音書の執筆意図をよく表しています。このことに則って、イエス様から流れ出た「血と水」(34)の持つ深い意味(真実)を読み取らなくてはなりません。その後でヨハネは、それは神様がご計画されていたことなのだと付け加えますので(36-37)、神様がなして下さった御子の死による罪の赦しを、私たちはこの「血と水」に確かに覚えていいのです。感謝！